



2022年8月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)



2022年1月7日

上場会社名 日本BS放送株式会社 上場取引所 東
 コード番号 9414 URL <https://www.bs11.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 兼 COO (氏名) 近藤 和行
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役 CFO執行役員 (氏名) 平山 直樹 (TEL) 03 (3518) 1900
 四半期報告書提出予定日 2022年1月12日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2022年8月期第1四半期の連結業績(2021年9月1日~2021年11月30日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年8月期第1四半期	3,040	9.2	705	22.8	704	9.6	466	7.9
2021年8月期第1四半期	2,785	△2.2	574	21.8	643	35.6	432	33.6

(注) 包括利益 2022年8月期第1四半期 466百万円(7.9%) 2021年8月期第1四半期 432百万円(33.6%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年8月期第1四半期	26.18	26.16
2021年8月期第1四半期	24.27	24.26

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2022年8月期第1四半期	22,768	20,426	89.6
2021年8月期	22,972	20,316	88.4

(参考) 自己資本 2022年8月期第1四半期 20,411百万円 2021年8月期 20,301百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年8月期	—	0.00	—	20.00	20.00
2022年8月期	—	—	—	—	—
2022年8月期(予想)	—	0.00	—	20.00	20.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2022年8月期の連結業績予想(2021年9月1日~2022年8月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	5,950	3.5	1,060	△16.2	1,060	△20.6	735	△19.3	41.28
通期	12,200	1.6	1,810	△32.2	1,810	△34.0	1,250	△33.0	70.21

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

新規 — 社(社名) — 、除外 — 社(社名) —

- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
② ①以外の会計方針の変更 : 無
③ 会計上の見積りの変更 : 無
④ 修正再表示 : 無

- (4) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
② 期末自己株式数
③ 期中平均株式数(四半期累計)

2022年8月期1Q	17,804,032株	2021年8月期	17,804,032株
2022年8月期1Q	137株	2021年8月期	137株
2022年8月期1Q	17,803,895株	2021年8月期1Q	17,803,895株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件については、添付資料4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(会計方針の変更)	9
(追加情報)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間における我が国経済は、新型コロナウイルス感染症（COVID-19、以下「新型コロナウイルス」といいます。）による厳しい状況が徐々に緩和されつつあり、各種政策の効果や海外経済の改善もあり、景気が持ち直していくことが期待されています。一方で、新型コロナウイルスの再拡大の懸念や金融資本市場の変動による影響などのリスクが継続するため、先行きは極めて不透明な状況で推移しております。

当社を取り巻くBSデジタル放送業界は、デジタル放送受信機の普及に伴い、視聴可能世帯数の割合は全世帯の77.1%（「BS世帯普及率調査」(株)ビデオリサーチ調べ）で推移しております。衛星放送メディア関連の広告費は、1,173億円（前年比92.6%）となり、そのうち70%強は当社を含むBSデジタル放送事業が占めております。

（「2020年 日本の広告費」(株)電通調べ）

このような状況下、当社は「質の高い情報を提供することで 人々に感動を与え 幸せな社会づくりに貢献します」を経営理念として中長期的な成長を実現するため、新規コンテンツ開発、配信ビジネス等の新規事業開発に取り組み、既存コンテンツ強化とともに効果的な広告宣伝、広報施策を実施したことにより、堅調に推移いたしました。

[レギュラー番組]

報道番組では、10月より『報道ライブ インサイドOUT』に新サブキャスターとして『速報ニュース インサイドOUT』のキャスター上野愛奈さんを迎え、報道番組の統一感と連動性を強化いたしました。

前連結会計年度に特別番組として放送した、2つの番組を新レギュラー番組として、10月よりスタートいたしました。英雄たちの功績と意外な素顔を歴史家・作家の加来耕三先生と共に履歴書にまとめあげていく歴史教養番組『偉人・素顔の履歴書』、ローカル鉄道の沿線地域の振興を目的として始まった「鉄印」を集める紀行番組『私たち鉄印帳はじめます。』の放送を開始いたしました。東京メトロポリタンテレビジョン(株)、(株)京都放送と3社共同制作の『京都画報』は、10月より月1回のレギュラー番組として、俳優の常盤貴子さんが最新で上質な京都の美・知・芸・技・食をお届けしております。

スポーツ番組では、放送開始6年目となるプロバスケットボールBリーグの情報番組『マイナビ Be a booster! B.LEAGUE ウィークリーハイライト』の新MCにココリコの田中直樹さんと川口満里奈さんを迎え、新シーズンをスタート。『諸見里しのぶ 実践 ゴルフテク!』、『BSイレブン競馬中継』、『うまナビ!イレブン』とともにスポーツ番組の充実に努めております。

また、紀行番組『太田和彦のふらり旅 新・居酒屋百選』、音楽番組『八代亜紀いい歌いい話』、『大人のバイク時間 MOTORISE』、(株)京都放送との共同制作番組『京都浪漫 悠久の物語』等も内容をより一層充実させて放送しております。

更に、世界最大級のドキュメンタリーチャンネルである「ディスカバリーチャンネル」が誇る豊富で良質な作品群の中から作品を厳選し『ディスカバリー傑作選』として、「自動車」「大自然」「料理」等、幅広いジャンルの番組を放送しております。ドラマジャンルでは、ヨーロッパミステリー『RIG45 絶海に潜む闇 シーズン1』、中国ミステリー『逃れられない運命—在劫難逃—』、『初恋王宮～お妃さまと呼ばないで～』を日本初放送、BS初放送の韓国ドラマ『優雅な母娘』、無料BS初放送のタイドラマ『2gether』等を放送いたしました。

【特別番組】

新たな試みとして女子プロゴルフトーナメント『スタンレーレディスゴルフトーナメント』を放送し、多くの視聴者からご好評いただきました。このほか、新型コロナウイルス拡大の影響で2年ぶりの開催となった『2021年度全日本学生柔道優勝大会』を放送。4つのダートグレード競走が同日実施される『ダート競馬の祭典「JBC2021」生中継』を放送、また、事前番組として『絶対、JBC ホースマンたちの物語』も制作、放送いたしました。また、世界最高峰リーグと言われる「日本女子ソフトボールリーグ」1部の上位5チームが日本一を目指して戦う『日本女子ソフトボールリーグ2021 決勝トーナメント』は、2017年より5年連続で放送いたしました。

毎年恒例の㈱京都放送との共同制作番組「京都紅葉生中継」は、今年で放送6年目となり『京都紅葉生中継2021～古都を照らす希望の「光」～』と題し、ゲストに俳優の高島礼子さん、ギタリストの押尾コータローさんを迎え、勅使門や枯山水庭園が名高い曼殊院門跡をメイン舞台に、光の演出によってもたらされる幽玄な夜の紅葉をお届けいたしました。『おいでよ和歌山 絶景！爽快！海沿いサイクリング旅』では、紀南エリアのサイクリングコースを走りながら、観光、グルメ、温泉など、和歌山の見どころを紹介いたしました。

【アニメ関連事業】

「ANIME+」枠では、製作委員会出資作品である『大正オトメ御伽話』、『テスラノート』、『やくならマガカップも二番窠』、『吸血鬼すぐ死ぬ』、『逆転世界ノ電池少女』、『無職転生』、『プラチナエンド』、『境界戦機』等を含め、毎クール約40タイトルのアニメ番組を放送。視聴者からの強い要望に応え『鬼滅の刃 竈門炭治郎立志編』の再放送を実施し、『鬼滅の刃 無限列車編』と併せ、視聴者ニーズの充足に努めました。また、12月からは『鬼滅の刃 遊郭編』の放送もスタートしております。

そのほか、オリジナルアニメ関連番組『アニゲー☆イレブン!』、アニメソング番組『Anison Days』を引き続き放送いたしました。

また、今の時代を生きる子供たちに素敵な絵本との出会いを贈る『今日のえほん』は、グループ会社である㈱理論社、㈱国土社の児童書を映像化し、読み聞かせ番組として放送しております。「アニメプラス」枠、「キッズアニメ∞(むげんだい)」枠と共に、子供から大人まで幅広い視聴者にご好評を得ております。

【配信コンテンツ】

当期の重点施策である「配信ビジネス、新規事業開発と収益化」を目的とし、自社制作番組のネット配信を強化しており、番組を厳選し、Youtube等の各種プラットフォームにて広告付き見逃し配信を開始いたしました。また、当社独自の配信サイト「BS11オンデマンド」でも、引き続きレギュラー番組、特別番組について、放送後に無料見逃し配信を行っております。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は 3,040,745千円（前年同期比 9.2%増加）となりました。営業利益は 705,108千円（前年同期比 22.8%増加）、経常利益は 704,786千円（前年同期比 9.6%増加）、親会社株主に帰属する四半期純利益は 466,060千円（前年同期比 7.9%増加）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ 203,960千円減少し、22,768,945千円（前連結会計年度末比 0.9%減少）となりました。主な要因は、現金及び預金が 231,586千円減少したこと等によるものであります。

当第1四半期連結会計期間末における負債合計は、前連結会計年度末に比べ 313,942千円減少し、2,342,791千円（前連結会計年度末比 11.8%減少）となりました。主な要因は買掛金が37,592千円増加したものの、未払法人税等が 370,946千円減少したこと等によるものであります。

当第1四半期連結会計期間末における純資産合計は、前連結会計年度末に比べ 109,982千円増加し、20,426,154千円（前連結会計年度末比 0.5%増加）となりました。主な要因は、利益剰余金が、前連結会計年度の期末配当 356,077千円により減少したものの、親会社株主に帰属する四半期純利益 466,060千円の計上に伴い109,982千円増加したこと等によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2022年8月期の業績予想につきましては、2021年10月7日付の「2021年8月期 決算短信」で公表しました業績予想から変更ありません。

なお、業績予想は現時点において入手可能な情報に基づき作成しており、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年8月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2021年11月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	13,021,321	12,789,734
受取手形及び売掛金	2,065,994	2,047,176
棚卸資産	363,519	458,828
その他	69,312	97,398
流動資産合計	15,520,147	15,393,137
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	2,369,269	2,343,467
土地	4,034,756	4,034,756
その他(純額)	606,993	558,363
有形固定資産合計	7,011,019	6,936,588
無形固定資産	84,248	78,117
投資その他の資産	357,490	361,102
固定資産合計	7,452,758	7,375,808
資産合計	22,972,905	22,768,945
負債の部		
流動負債		
買掛金	500,329	537,921
短期借入金	500,000	500,000
未払法人税等	634,721	263,774
返品調整引当金	60,585	—
その他	853,693	931,301
流動負債合計	2,549,329	2,232,996
固定負債		
退職給付に係る負債	89,109	91,499
その他	18,295	18,295
固定負債合計	107,404	109,794
負債合計	2,656,734	2,342,791

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年8月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2021年11月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,183,936	4,183,936
資本剰余金	3,517,726	3,517,726
利益剰余金	12,599,839	12,709,821
自己株式	△143	△143
株主資本合計	20,301,358	20,411,341
新株予約権	14,812	14,812
純資産合計	20,316,171	20,426,154
負債純資産合計	22,972,905	22,768,945

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自2020年9月1日 至2020年11月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自2021年9月1日 至2021年11月30日)
売上高	2,785,417	3,040,745
売上原価	1,339,916	1,431,372
売上総利益	1,445,501	1,609,373
販売費及び一般管理費	871,323	904,265
営業利益	574,177	705,108
営業外収益		
受取利息	0	0
保険解約返戻金	69,130	31
その他	770	618
営業外収益合計	69,902	650
営業外費用		
支払利息	948	972
営業外費用合計	948	972
経常利益	643,131	704,786
税金等調整前四半期純利益	643,131	704,786
法人税、住民税及び事業税	212,755	241,107
法人税等調整額	△1,757	△2,381
法人税等合計	210,997	238,726
四半期純利益	432,133	466,060
非支配株主に帰属する四半期純利益	—	—
親会社株主に帰属する四半期純利益	432,133	466,060

四半期連結包括利益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自2020年9月1日 至2020年11月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自2021年9月1日 至2021年11月30日)
四半期純利益	432,133	466,060
四半期包括利益	432,133	466,060
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	432,133	466,060
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(収益認識基準に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下、「収益認識会計基準」という。)等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することとしています。これにより、当社グループの書籍等の出版販売について、従来は、返品による損失見込額を返品調整引当金として計上しておりましたが、変動対価に関する定めに従って、返品されると見込まれる製品についての売上高および売上原価相当額を認識しない方法に変更しており、返品負債を流動負債の「その他」および返品資産を流動資産の「その他」に含めて表示しております。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、当第1四半期連結会計期間の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、当第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しております。ただし、収益認識会計基準第86項に定める方法を適用し、当第1四半期連結会計期間の期首より前までに従前の取扱いに従ってほとんどすべての収益の額を認識した契約に、新たな会計方針を遡及適用しておりません。

この結果、当第1四半期連結累計期間の損益に与える影響は軽微であります。また、利益剰余金の当期首残高に与える影響はありません。

なお、「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号 2020年3月31日)第28-15項に定める経過的な取扱いに従って、前第1四半期連結累計期間に係る顧客との契約から生じる収益を分解した情報を記載しておりません。

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することとしております。

なお、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(追加情報)

(会計上の見積りを行う上での新型コロナウイルス感染症に関する一定の仮定について)

当第1四半期連結累計期間における新型コロナウイルス感染症拡大の影響に関する会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定については、前連結会計年度における有価証券報告書の(追加情報)に記載した内容から重要な変更はありません。